

市民・専門家と連携した調査・保全活動

なごビオ (なごや生物多様性保全活動協議会)
長谷川泰洋 (名古屋産業大学)



本日の内容

1. なごビオ (なごや生物多様性保全活動協議会) の活動状況

地域の専門的情報の最前線

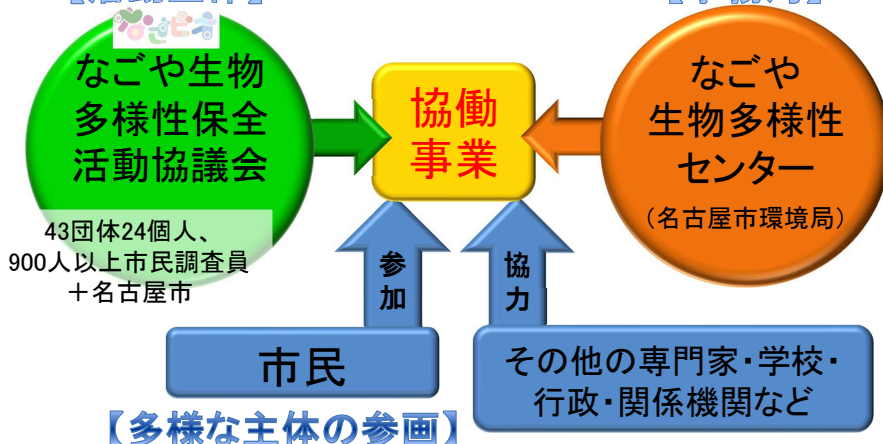
2. なごやにおけるOECEMと市民・専門家・行政・企業等との連携

なごやにおける効果的なOECEMのあり方

なごや生物多様性保全活動協議会

【活動主体】

【事務局】



ミッション

- 名古屋に生息・生育する生物およびその環境の継続的な調査を行い、生物多様性の現状を把握する。
- 外来生物の防除などを通し身近な自然の保全を実践する。

幹事【22名】

保全団体：8名

大学・研究会：9名

個人：3名

行政：2名

氏名	所属等
石原 則義	愛知守山自然の会/名古屋自然観察会
梅本 洋子	花水緑の会
大沼 淳一	(個人会員) 水質
大矢 美紀	山崎川グリーンマップ
熊澤 慶伯	名古屋市立大学大学院理学研究科生物多様性研究センター
小菅 崇之	(個人会員) 水生植物
齋藤 牧	なごや環境大学実行委員会
榊原 靖	(個人会員) 水生生物
佐藤 裕美子	名古屋自然観察会
鷺見 順子	滝ノ水緑地の里山と湿地を育てる会
高木 和彦	名東自然倶楽部
滝川 正子	なごや東山の森づくりの会
戸田 尚希	名古屋昆虫同好会
富田 啓介	(個人会員) 愛知学院大学教養部准教授
野中 賢輔	なごや外来種を考える会
野呂 達哉	四日市大学環境情報学部野生動物保全学研究室 /日本カメ自然誌研究会
橋本 啓史	(個人会員) 名城大学農学部生物環境科学科准教授
長谷川 泰洋	名古屋産業大学現代ビジネス学部 ・大学院環境マネジメント研究科長谷川泰洋研究室
藤谷 武史	尾張サンショウウオ研究会
森山 昭彦	(個人会員) 中部大学応用生物学部環境生物科学科教授
矢部 隆	日本カメ自然誌研究会
伊藤 隆之	名古屋市環境局環境企画部主幹 (生物多様性の保全担当)

設立の経緯 ～多様な主体の連携

2008	COP10の開催地が名古屋市に決定	市民主体の勉強会が始まり、10月：名古屋ため池生物多様性保全協議会が設立され、池干し事業を開始
2010	COP10開催	
2011	5月：なごや生物多様性保全活動協議会 設立 9月：なごや生物多様性センター 設立	

1980-	市内の各地で自然観察会が開催
1998	8月：市内初の市民参加による里山保全活動が開始【相生山緑地オアシスの森くらぶ】
2003	3月：森づくり活動団体 22 団体が集まり、「なごやの森づくりパートナーシップ連絡会」(森パー連)を発足 *現在30団体
2007	10月：東山新池で市民と行政による池干し

主な活動のしくみ

◆部会活動:日ごろの活動【市民、保全団体、専門家】

会員団体のフィールドを中心に、専門的な生物調査
→生物基礎情報や保全活動へ応用

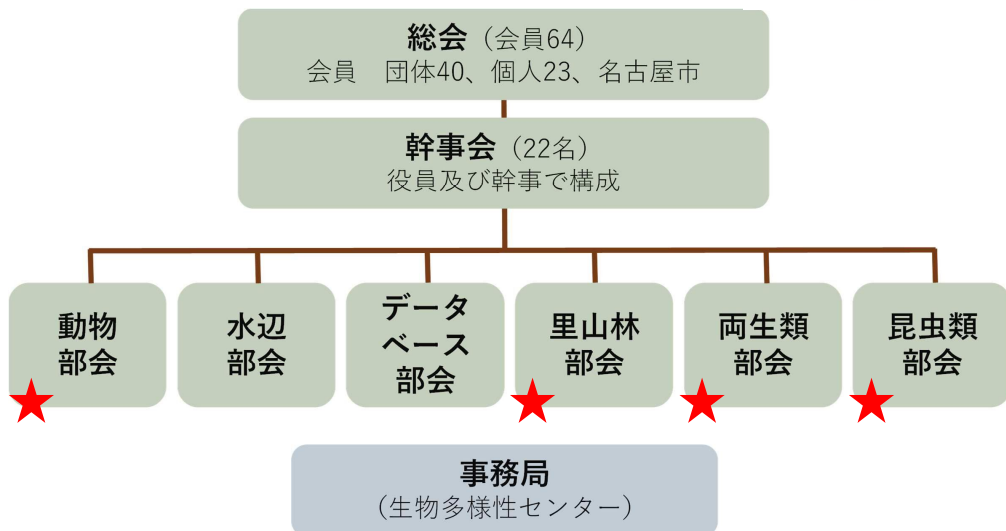
部会:動物、水辺、里山・社寺林、両生類、昆虫類、データベース等

◆イベント的な活動【市民、地域、専門家】

- ため池等の池干し【地元組織、学校、部会等が参加】
- 市民生き物一斉調査【平均で350人が参加】
- なごや生物多様性サマースクール【500人以上の小中学生、保護者が参加】

多くの市民が身近な生物多様性を学習、体験する全国的に先進的な取り組み

なごや生物多様性保全活動協議会



★ 部会長が名古屋市レッドリストの策定委員

https://bdnagoya.jp/introduction/activities/pdf/R3_katsudou.pdf

部会	事業名	活動回数	参加人数	活動場所	場所の内訳
動物	カメラ調査と外来カメ類の防除、ニホンイシガメの保全、哺乳類調査と外来哺乳類の防除、コウモリ類の調査と保全、標本の作製と分析	98	234	14	千種区：細口池、平和公園、東山公園、東山動物園／昭林区：隼人池／守山区：小幡緑地、才井戸流、二ツ池／緑区：大高緑地／名東区：すり鉢池、猪高緑地、牧野池、テッチョ池／天白区：なごや生物多様性センター
水辺	池干しモニタリング調査、カワバタモロコシの保全と次世代育成、なごやの希少種対策、外来種対策および普及啓発	17	98	13	千種区：猫ヶ洞池、東山新池、東山の森（里山の家）／西区：ガマ池／中区：名古屋城外堀北東部／瑞穂区：山崎川／港区：戸田川緑地、福春小学校／守山区：童巻池、才井戸流／名東区：すり鉢池／天白区：大根池、なごや生物多様性センター
データベース	空中写真の蓄積	-	-	1	天白区：天白溪
里山林	植物相・植生調査、希少種の生育環境調査、巨樹の生育状況調査	34	135	21	千種区：平和公園／東区：片山神社、長母寺、徳川園／中区：フラリエ／昭林区：興正寺・興正寺公園／守山区：宝勝寺、白山神社、東谷山／緑区：大高緑地、水広公園、神沢池／名東区：猪高緑地、牧野ヶ池緑地／天白区：天白公園、荒池、島田緑地、平針黒石市民緑地、相生山緑地、天白溪、なごや生物多様性センター
両生類	両生類の現状把握のための生息調査、ウシガエルとアメリカザリガニの防除、生息域内外における保全活動の実施と支援・体制づくり	78	181	16	千種区：平和公園、東山公園、東山南部、猫ヶ洞池、一粒荘跡／港区：荒子川公園、水田／守山区：小幡緑地、東谷山／緑区：大高緑地／名東区：猪高緑地、牧野ヶ池緑地、明徳公園、井堀下池／天白区：水路、なごや生物多様性センター

*公園と池は別の場所です(例：猪高緑地とすり鉢池)

初確認等の種数

事項	植物	昆虫
市内初確認の種数	1種	13種
県内初確認の種数		3種
市内で絶滅(E X)と判定された種の確認数	2種	

外来種の防除

種名	防除数	関係する事業
アライグマ	0	動物部会(外来哺乳類の防除)
ミンシツピアカミミガメ	123	動物部会(外来カメ類の防除)
ウシガエル	712	両生類部会(ウシガエルの防除)、池干し
アメリカザリガニ	2,625	水辺部会(池干しモニタリング)、両生類部会(アメリカザリガニの防除)、池干し
オオキンケイギク	ゴミ袋*14個	東山新池での抜き取り会 *90回のゴミ袋換算

ため池、池干し調査

➢17池
➢4000人以上
(ため池協議会時代を含む延べ参加者数)

目的

- 池の水を抜いて、**生物種、個体数を記録**
- 外来生物の除去**：ブラックバスやブルーギルなど
- 環境学習から保全活動に至るプロセスのサポート**



ため池、池干し調査

➢17池
➢4000人以上
(ため池協議会時代を含む延べ参加者数)

- 市民・自治会
- 保全体
- 企業
- 専門家
- 行政



なごや生きもの一斉調査

➢11回
➢5129人
(延べ参加者数)



なごや生きもの一斉調査の実施

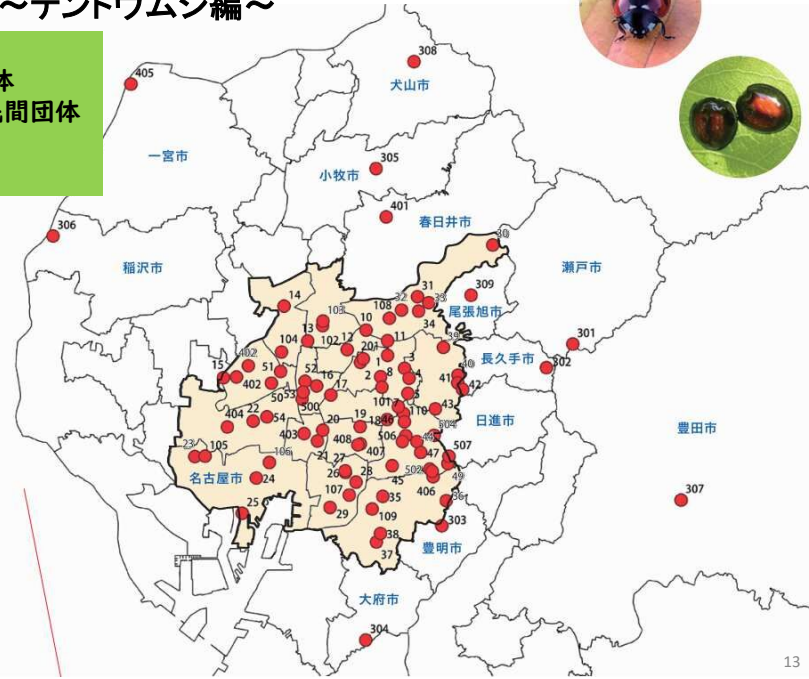
実施年月	調査対象	調査地点	確認数	参加人数
2012年 1月	野鳥	45箇所	91種 15,402個体	600名
2012年 10月	陸貝	33箇所	41種 7,003個体	465名
2013年 6月	オオキンケイギク	30箇所	1種 646個体群	214名
2014年 7月	甲殻類	20箇所	4種 2,053個体	460名
2015年 10月	カマキリ	96箇所	5種 成虫 389個体 卵鞘 77個	503名
2016年 8月	セミの抜け殻	37箇所	5種 17,793個	357名
2017年 9月	淡水貝	61箇所	23種 4,546個体	219名
2018年 8~9月	アリ	37箇所	43種	166名
2019年 11月	ひっつきむし	43箇所	26種	227名
2020年 10月	バッタ	41箇所	9種 832個体	506名
2021年 9月	テントウムシ	85箇所	42種 1,676個体	991名

➢ 11回
➢ 5129人
(延べ参加者数)

【拡大版】
名理会9校
(385名)
ユース1校
(72名)
他都市団体
9団体
(77名)

なごや生きものの一斉調査2021 ～テントウムシ編～

- 市民
- 保全体
- 企業・民間団体
- 専門家
- 行政



13

なごや生物多様性センターの博物館的機能の強化へ

◆協議会活動で得られた標本、生き物情報を蓄積(2020年時点)

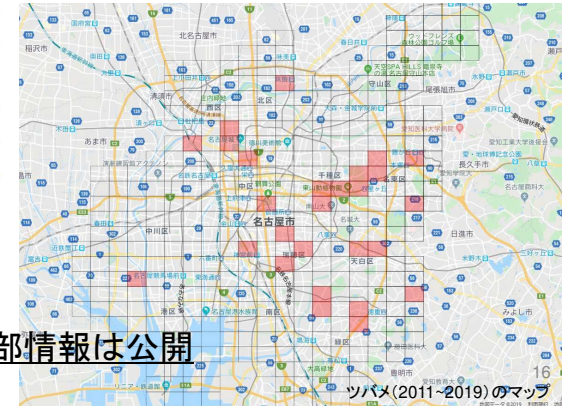
センターに収蔵されている標本の点数

	分類群	点数
動物	哺乳類	700
	爬虫類	50
	両生類	30
	魚類	200
	昆虫類	4,300
	甲殻類	100
	クモ類	100
植物	維管束植物	13,000
	計	18,780

※2021(令和3)年9月1日現在(データベース未登録のものも含む)

標本点数は、県内有数の施設になりつつある。→連携強化で更なる収集へ

サイエンスミュージアムネット(S-net)に登録し、webから閲覧可能な仕組みづくりを進めています。



◆データベースを作成、一部情報は公開

●名古屋市版レッドリスト 2020 の状況

名古屋市では、5年に1回レッドリストを作成しています。2020年に公表したレッドリストの掲載種数は植物で335種、動物で419種、合計754種で、このうち絶滅の恐れがある種は植物で197種、動物で216種、合計413種です。5年前に比べると植物で15種、動物で9種、合計24種増えている状況です。これらの原因には、開発などによる生息・生育地の悪化、植生遷移の進行による生息・生育環境の変化があります。



絶滅とされた生きもの(市内で確認されなくなった生きもの)



ギフチョウ 写真提供:高崎保郎
市レッドリスト(2020年):絶滅

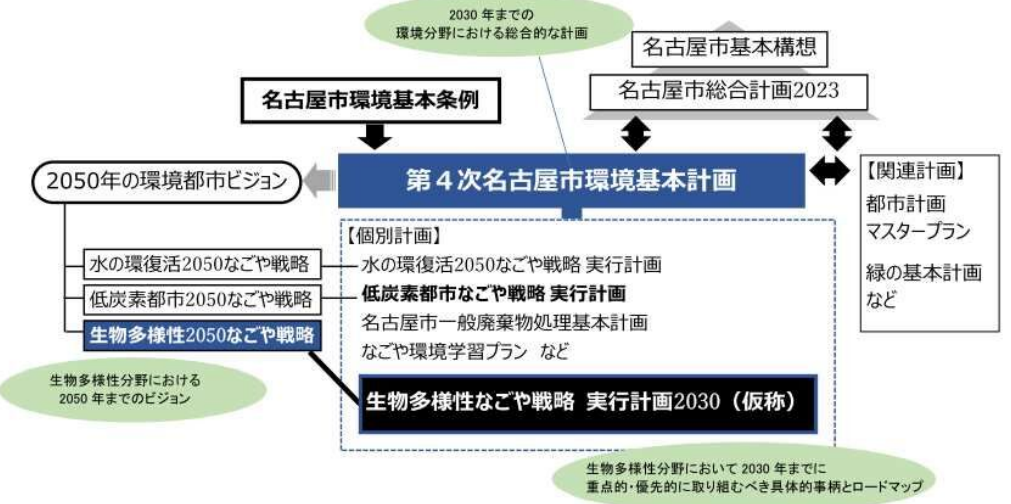


タガメ 写真提供:名古屋市東山動植物園
市レッドリスト(2004年):絶滅



オナモミ
市レッドリスト(2010年):絶滅

17



18

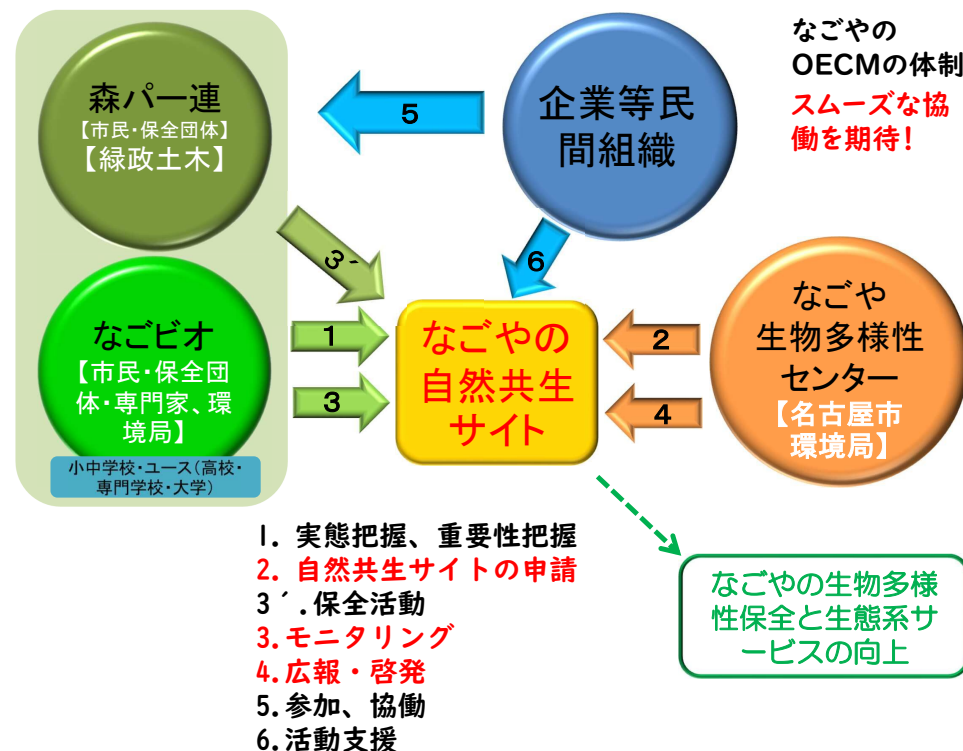
30by30アライアンス【有志連合】

- ✓ 産民官17団体を発起人とする、「生物多様性のための30by30アライアンス」を発足させ、本日その第1弾として、企業、自治体、NPO法人等、計116者
(2022年04月08日時点)
- ✓ 名古屋市は、自治体24の内の一

2022年度
OECMIに該当する場所を、環境省が自然共生サイトとして認定する仕組みを試行する**実証事業**を実施します。

2023年度
申請に基づく認定の仕組みを正式に運用。本実証事業はこれに先立って行うものであり、30by30アライアンスメンバーの協力のもとに実施します。

19



OECMI(自然共生サイト)への期待

- 企業等、多様な主体が参加する起爆剤になること
 - *TNFD: 企業の自然関連情報の評価・開示の加速のタイミング
- モニタリング活動は、モチベーションの継続や新たな担い手の獲得につながる
 - *例: 水質環境目標値市民モニタリング、モニ1000など
- 継続性を担保可能なインセンティブ: 活動費は重要、特に若者世代の支援

考えること

- 企業が自前でビオトープ等をつくるよりも、保全団体への支援の方が地域の生物多様性保全に有効か。
 - なごビオへの支援は地域貢献度が高い
- OECMIによりスムーズな協働を期待したい
 - 調査(なごビオ)、保全(森パー連)、申請・広報(行政)、参加・支援(企業等)の協働体制
- 一方で、OECMIに入らない生態系へのケアも重要(SDGs)

21